

第6回あおり立志挑戦塾

平成23年11月5日(土)~6日(日) 於:青森市国際交流ハウス

□天明塾長挨拶(「己」を知ること、「志」の原点について語る)

今回は最終の塾です。皆さん何かしなくちゃいけないという気持ちがひしひしと伝わってきます。この塾ではどういうことに挑戦するのかを改めて考えてみると、それは自分に挑戦するということではないかと思えます。では自分の何に挑戦するのか? 自分の人間力を高めることに挑戦するのではないか? 起業したり、まちづくりをしたり、具体的なテーマを持っている人もいます。しかし具体的なテーマをやるにしても、それが成功するかどうかは、その人の人間力が高いかどうかにかかっていると思えます。

以前、サムシング・グレート(偉大なる何者か)についてお話しました。私達人間とか宇宙とかを作っている何かがあって、それはわれわれの祖先、私達の親の、親の、親の、ずっと上の親の世代の何かだけど、私達が志を持って何かやろうとすると、このサムシング・グレートが応援するという話。しかしそのサムシング・グレートが、今の私たちを応援しようと思ってスイッチを入れても、配線が繋がっていなかったら届かない。だから、配線だけは繋げておこうということこれからお話します。

皆さんの「いのち」はどこにある? 確実に言えることは「いのち」はお父さん・お母さんから受け継がれてきた。お父さん・お母さん・おじいちゃん・おばあちゃん。おじいちゃん・おばあちゃん・ひいおじいちゃん・ひいおばあちゃんと、繋がってきている。25代遡ると3355万人の先祖がいて、30代遡ると80億人になるという話ですが、たった一人欠けても今の自分はここにいない。そういう「いのち」の繋がりがあって、その流れを知ること、自分の家系を遡り先祖の生き様を調べること、これを私はやってきました。



家系図は世界でたった一つの自分だけの教科書なんだ。私は恩師と一緒に、潰れた会社の再建というのを40社やってきた。どうやって会社を再建していくのか。それには経営者の人間性、人間力を高めていかなければいけない。経営者の今の人間性の原因がどこにあるのかを考えていくと、どうも親、先祖との関係にありそうだと気付いたんですね。恩師は、行き詰った会社の社長と一緒に、その社長の家系分析をやったんです。先祖に偉い人がいるとか、うちは何々の流れだとか、そういうことではなくて、どういう生き様が今の自分に流れているのか。どういう苦しみ・哀しみが親や祖先に蓄積されているか。それをしっかり自分が受け止める。そしていいところは活かしていく。悪いことは自分のところで断っていく。それによって、自己を新しく知ることができる、今を生きる自分の使命感を確認できる。結果として、人間性が高まり、家族のコミュニケーションが改善されていく。

私のことをお話します。実は、私は両親と同居してたけど、家内と私の父親はうまくいかなかった。父親はね、無口で陰険で強情で非常に気難しい人だった。ところが私の家内は、下駄屋の娘で下町育ちで天真爛漫。その天真爛漫な人が父親のところに来たものだからなかなかうまくいかない。新婚旅行から帰ってきて、もうグシグシ言っている。仕事から帰ってくると、「お父さん、今日も口聞いてくれないの」という話。もう3日に1度はメソメソしているわけだ。「今日はこんなことがあった」、「今日もご飯食べてくれなかった」、「今日はこんな嫌みを言われた」って。

そこで恩師に相談に行った。そこで言われた。「もう一度改めて家系図を全部やり直せ」ってね。その家系図がこれなんです。(塾生に示す。) 家系分析で分かったことは色々あった。私の母とその姑の問題、さらにその姑とそのまた姑の問題。嫁、姑の確執が代々続いていたんです。もう一つ分かったことは父親のこと。私の父親は10歳代で、祖父の借金の保証として人質としてとられて、朝4時に起きて夜中まで草鞋を編んだり農作業をさせられたり、何年も仕事をさせられていたということを知った。親は自分が体験した辛いことは子に言わないよね。私は大きくなるまでそのこと知らなかった。でもそのことが分かってから、「ああ、そうだったのか。だから父さんはこんなに人を信用しないし、ケチなんだ。だから妻がちょっと高価な物を買おうとすると責めたりするんだ。でもそれは責めているんじゃない、自分の体験か

ら、お金は大事に使わなくちゃいけないよ、ということを見せてくれているんだ」というように、これまで見えなかったことに気付いた。そこから全てが一挙に変わっていったんです。

親、祖先がどんな生き様をしてきたのか、心情を察して理解してみる。両親、祖父母、曾祖父母がどんな生まれ方、育てられ方、死に方をしてきたか。創造的な生活で育てられた子は全ての現象をありのままに受け止める。反対に、争いの中で生まれた子は健全に育ちにくい。生き方・働き方が創造的な家庭では、夫婦が互いに讃え合う。対立・我慢の生活では、「自分は自分」という考え方になりやすい。

健康と死因。死は生き方の総決算。死に方は生き方の反映。死に方を見ると生き方が分かるんだよ。恩師はよく言っていた。家系に現れる病気は、夫婦、親子関係の対立によるストレスの増大と、これを原因とする不自然な生活に原因となっていることがあると。健康や病気を個人のものとしてだけ考えるのではなく、家系という繋がりの中で見てみると、自分達に何が教えられているのか分かります。

そして徳・不徳ということ。人徳家とか、反対に人に迷惑ばかりかけていたとか。とりわけ不徳については、辛かったろうかと、その心情を理解してあげる。そして先祖の全てを受け入れる。これは大事なことです。「えー！うちの先祖、こんな悪いことをしていたんだ」ということじゃなくて、なぜそうせざるを得なかったか、その苦しさを理解してあげる。

家系分析は、自分を客観化することなんだ。自分を知る、つまり自己客観化。「そうか、自分はこんな素晴らしいことがあったんだ。自分はこんな使命を持って生まれてきたんだ。これが志の原点なんだ」ということへの気付き。それが人間性の向上に繋がり、世の中を良くしていくことのサポートに繋がっていくと思います。ずっとバトンを渡されてきたその私が、今度はどうバトンを渡していくのか。これがこの塾で、私がお伝えできる根本だと思っています。



□講話

講師 ジェフリー・アイリッシュ氏 (ノンフィクションライター、鹿児島国際大学准教授)
題名 「社会人について」



この塾での講話は3度目になりますが、最初に野田名誉塾長に呼ばれた時、どうして呼ばれたのか自分なりに考えました。多分2つのことがあったと思います。

1つは、外国人ということとはともかく、これまでやってきたことと今やっていることが、皆さんと遠すぎず真似できないようなものではない存在だということです。わりと塾生に近いのではないかとことです。

もう1つは、野田名誉塾長が私を通してメッセージにしたかったのが、今の人生でいいのかということをお皆さんに考えてほしかったんだということですね。例えば私は21歳で清水建設に入って29歳で辞めて、鹿児島県の甕(こしき)島で定置網漁師をして、その後ハーバード大学大学院に入り、今度は30

人位しかない鹿児島島の土喰(つちくれ)集落に住んだ。名誉塾長が言うエリートの道を捨てて、そうでない道を選んでいるという風に思われました。

でも私は、エリートについて全く逆の気持で生きていて、それこそ今の生き方が1番エリートの道だと思っています。どこがエリートかと言いますと、まず選択肢があるということです。私は学びたくて全てを選択しました。清水建設時代は、日本語を学び、会社運営も学び、日本社会について学んだ。あらゆる意味で本当に興奮状態です。学習曲線というのがありますが、時間の計画とともに最初の頃は多くのことを学び、少しずつフラットになっていきます。私の場合は、フラットになり始めた頃に、また別な環境に飛び込んで他のところに移っているのが大体のパターンです。

また、私は色々な国を訪ね、人の生き方を色々見てきましたが、日本は生きるか死ぬかという世界ではありません。食べていけなくなるということはまず無い。世界を見ると、自分のポケットに小銭があるだけでというのが沢山あって、私

達は、その中で上位1%位の多分 100 人に1人ぐらいのレベルのところ立っています。そういう意味でもエリートなんです。そこに立っていて、自分の人生を無駄にしたら、下の 99 人に迷惑な話だと私は思います。

ここで集落のことをお話したいと思います。現在は自分の家族を入れて 26 名で家族を外すと 22 名ですね。家族を外すと高齢化率が 93%、家族を入れると 80%位に下がります。日本人は当たり前のことだと思っているけど、私は日本の国民健康保険とか福祉関係の制度は、アメリカよりも優れていると考えています。こんなに良くできているものはなかなか無い。けれどもその裏を見てみると、サービスが良すぎて、そのサービスが集落に入ることによって、逆に集落の人達が地域の人達に何もしてあげなくてもいい、というような展開になります。全体を考えた時に、これまで支え合うということをやっとやってきた地域の人達が、10 年位前から外からサービスが入ってきたために、全体をいじくるというか、ひびが入るようなところがあるんですね。

注目していただきたいのは畑づくりですね。畑づくりは誰も意識していないけど、実はものすごく健康管理になっている。それとお墓参りです。皆さんは年にどの位頻繁にお墓参りをしますか？ 春・秋のお彼岸、お盆、お正月くらいですか？ この集落は年に何回だと思えますか？ 年 365 回毎日お墓参りに行っています。

よく地域活性化とか大学で学生達と一緒に勉強をしていますが、うちの集落の場合、地域活性化ではなくて、今の生活をどうやって守っていくか、ということが大事なんです。何か新しい展開ではなくて、今置かれている状況の中にどうやって支え合っていくか、どうやってお互いを守っていくかということが大事なんです。

ここで今日のテーマである「社会人」という言葉に辿り着きますが、自分は 45 歳で初めて社会人になったと思います。どういうことかと言いますと、日本では、学校を出て社会に出るだけで自動的に社会人になる。私の「社会人」の定義は、社会に本当に参加している人、本当に関わっている人のことを言います。

ある意味で行動が一番大切なんですけど、行動だけじゃなくて姿勢みたいなもの、考え方みたいなものがあるんです。例えば、自分は土喰集落の小組合長を2回勤めたけど、自分がその役割を与えられているということが大事なんです。例えば清水建設にいた頃も、ある意味でバリバリの社会人という風に聞こえますが、で分が中心なんです。甕島の時も定置網漁師だったその当時、どれだけ社会に関わっていたかという、「社会人」というほどではなくて、そのコミュニティをどうすればいいかということまで頭が回ってなかった。周りを見る余裕がほとんどできていなかったんですね。

現在私は、地元の地域活性化関係の委員会とか、県の観光関係の団体とか、国土交通省の地域の自立を図るための委員会だとかに入っていますが、そこでの自分はある意味で半社会人的な感じがします。偽物社会人までいかなければ、「社会人」になっているかいないかの半々という感じで、偉そうな意見は言えるけれど、行動力がどうかといわれれば難しいところがあります。

自分にとって何が一番大切か、自分の考え方の基本みたいなものを、このように人前で話し、自分に対して確認をする機会を持つのは贅沢なことです。皆さんも年に1回位、自分だったら何を周りに伝えたいか、何が自分にとって大切かということを確認するのも面白いと思います。その大切なものは、私の場合は8つ位あります。

1番目は、人のいいところを探したい、人のいいところを信じたい、そのような生き方をしたいということです。人と出会った時に、その人の一番いいところを信じ、それを探して接したいですね。

2番目。自分が兄弟を亡くしているところからきているんだけど、生きているのは当たり前のことではないということです。だから自分の人生を無駄にしたくないし、無駄にはいけないということです。当たり前という考え方は、自分の中で作りたくないところがあります。こうやって皆さんにお話しする機会や時間があるというのも、当たり前のことではないんですね。天明塾長の言葉を借りますが、これは感謝すべきことなんです。

3番目。自分のものの見方とか表現の仕方なんですけど、辛いとか大変とか、これは無理でできないとか、そういう考えは持ちたくない。これまで訪問した国々の中には、必死で生きている人達がありました。だからその分、自分が与えられている状況や、自分が恵まれている分は、「辛い」とか「大変」という言葉は使っちゃいけないと思っています。自分の中で「無理」というのは無いし、そういう壁は作りたくないですね。

4番目は、自分が社会に関わることについての関係です。私は、1人の人間が社会全体や1つのコミュニティに影響を与えることはできると信じています。やり方次第だと思いますが、例えば私の場合は土喰集落とか川辺町とか、その高校生になったような感じで、その空気を作ることに自分の影響を与えることができていると思っています。

5番目。口に出すということも大切なんだけど、行動しない限りは何も言わなかったのと同じだと思います。口に出すというのは、他の人間との確認作業みたいな意味では大切なんですけど、やはり行動に移さないと何かしら小さいもの

で終わるといふか、少ない影響で終わると感じています。



6番目。私は会う人全てから、何かを学べると思っています。私は野田先生を尊敬しています。というのは、私のことが朝日新聞に掲載された時、先生はその記事を読んで、わざわざ鹿児島まで訪ねて来てくれたんですね。84歳のおじさんが50歳の若造のところに来て、何か学べるんじゃないかと思って来てくれたんですよ。本当は、学べるのは私の方なだけけれど、好奇心とか行動力とか先生はすごいと思います。年は上でも下でも、その人から何かを学べるということ、そこを見逃すと非常にもったいないと思います。以前、野田先生は私に、「周りの人と競争をしないこと。自分の1年前、自分の過去と競争をしない。」と言っていたことがあります。例えばこの塾のこれまでの講師のお

話を私が聞いたら圧倒されると思いますが、そう感じるは、多分自分のどこかにまた競争意識があって圧倒されるのだと思います。競争意識が無ければ、素直に学べると思うんですけどね。

7番目。これは天明塾長のお話しに似ていますが、感謝の気持ちを持って生きているということです。また感謝の気持ちを周りに伝えることが私の中ではとても大切なことなんです。私はまだ天明塾長のレベルまで届いていないと思いますが、ある意味で、自分がいただいているものが当たり前のことではなくて、自分は恵まれている状況だということを感じるの感謝だと思います。

8番目。最後に、これは今まで人に話したことはないことで、日本語として通じるかどうか分かりませんが、自分の中に「他人」はいないということなんです。よく地下鉄に乗っていて、降りてくる人が一生懸命降りようとしているのに、それを待たないで乗ろうとしている人がいるという話がありますよね。でも、降りてくる人が自分のおじさん・おばあさんかだったら、降りてくるのを待っていますよね。他人であれば自分に関係ない、だから待たないで乗ろうということになる。アメリカでは、バスなんかに乗っていると必ず運転手さんに「ありがとう」を言います。それは偶々その場限りで乗り合わせたバスであっても、できる限り「ありがとう」と言ひ、後ろから降りる場合でも運転手さんに声をかけて降りる。これは、相手も自分と同じ大切な人間なんだ、という気持ちで人に接したいということなんです。多分自分の中で、人間に感謝していることを実感したいということだと思います。それはある意味で自分に返ってくるものです。社会に関わるとか、「社会人」になるとか、そういうものは全て自分に戻ってきます。本当は自分のためにやってるんだということですね。周りから、この人はすごく優しいとか、人のことを思ってやっていると、そんな風に思われてもいいけれど、本当のところは、自分が生きていることを実感したい、生きていることを無駄にたくない、もっと学びたい、自分の居場所が欲しい、それだけのことだと思います。

自分の話し方が真面目すぎてどうかという感じがしますが、聴いてくださって心から感謝しています。ありがとうございました。

□グループディスカッション

テーマ：「塾生のスキルセットを活かして何ができるか？」

チームA

- “「わ」のつながり～輪、私、話～”
- イベントポータルサイトの構築、サポート

チームB

- “広がれ、立志の輪”
- 今すぐ青森のために何か活動し情報発信

チームC

- “地域の魅力を高めるために行動するリーダーになる”
- 期日を特定して行動を執行！ “やる我”



ファシリテーター

青森公立大学（遠藤哲哉教授、栗村圭一主任研究員、長岡正次専任研究員）